
武漢市の経済発展と生態環境保護

鄧南聖・呉峰

〈武漢大学〉

司会の先生ならびに諸先生方、今日はまず愛知大学に、そしてこのような機会を提供してくださった ICCS に感謝申し上げます。最初に感謝申し上げるのは、やはりこの機会についてです。この機会は愛知大学 ICCS が提起したもので、このように揺れ動く世界情勢の中で、どのように新しい中国学の研究を展開して、新しい枠組みを構築していくのかというのですが、私はこのセミナーそのものがそうしたことをすでに行っていると思います。なぜこのように言うのか。それはまず、人文社会科学研究をしている中国問題に関する一連の専門家が招かれ、その他に私たちのように自然科学、特に環境を専門とする学者まで招かれているということです。このこと自体が方法論から言えば新しいものだと思います。このような方法は現在私たちが環境について研究している問題ととても似通っています。例えば現在、世界中で行われている地球全体の変化に対する研究には現在4つの大きな計画がありまして、1つはIGBP、すなわち地球圏—生物圏国際協同研究計画、2つめは、世界気候研究計画、World Climate Research Program、3つめは、地球環境変化の人間の次元国際研究計画、International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change、4つめの計画は生物多様性、DIVERSITAS です。この4つの計画のうち、IGBP、WCRP、DIVERSITAS の3つが自然科学・技術科学・工学などの領域に集中していることは明白ですが、地球環境変化の人間の次元国際研究計画は、主に人文社会科学をやっている学者が集まって、私たちの地球全体の環境問題を解決しようと研究しています。愛知大学 ICCS のこのような試みは、現在、国際的に試みられているものと一致し、自然科学と社会科学、人文科学を十分にリンクさせていくことができます。それゆえ、私はやはりこのような機会を提供してくださったコーディネーターに感謝し、このような機会があつて初めて私は名古屋に来ることができ、愛知大学に来ることができました。前2日間の討論を通して、とても多くのものを学んだと感じています。これは挨拶で言っているのではありません。本当にそうなのです。主に私たち自然科学を研究する者が人文社会学を研究する学者とともに交流することにより、大変多くのものを学んだと感じています。

次に、コーディネーターが私にこのような機会を提供して下さり、私たちに国内の環境問題を紹介させていただけることに感謝申し上げます。なぜなら、前もって皆さんに提供した資料は比較的早い時期に準備したもので、私が今日ご紹介するテーマは少し違います。今日は、中国の中部における環境と生態系の問題をお話ししたいと思います。武漢の

状況を例にして、研究とまではいかないですが、私たちの国内、特に武漢市の環境保護を巡って行われている一連の活動について、皆さんに簡単な報告をしたいと思います。

以下、いくつかの面に分けてお話しします。1つは、武漢市について簡単にご紹介します。武漢市は中部地区に位置しており、北は北京、南は広州、それと東は上海、さらに西には重慶があって、基本的にはこのような半径1000kmの範囲にあります。そのため、武漢は中国経済の地理的な中心とみなすことができるという学者もいます。武漢市の全体的な状況について少し説明します。武漢市の地表水は比較的豊富で、長江、漢水という2つの大きな河が武漢で合流しています。この地方にはまた非常に多くの湖が存在し、非常に多くの小さな河川、長江、漢水の一連の支流が流れています。それゆえ、地表水が大変豊富で、その緑地面積、山地の状況はこのようなになっています(図省略)。また、武漢市は歴史のある都市で、3500年の歴史があり、非常に多くの遺跡があります。例えば、黄鹤楼、さらには1911年に孫中山が指導した辛亥革命があり、武昌はその発祥地です。以上が武漢市の簡単な紹介です。次に、武漢市の経済発展の状況について少しお話ししたいと思います。前2日間の会議で私たちが得たのは、国外の状況も、私たちの国内の状況もいいということです。中国全体の経済が発展していることについては異論のないところでしょう。では経済発展の基礎をなす、自然と自然環境という問題が中国では果たしてどうなっているのか。この問題については昨年、世界環境デーでアナン国連事務総長がすでに提起していますが、持続可能な発展には3つの支柱があって、1つは経済発展、2つめは社会的な進歩、3つめは自然資源と環境の保護です。私たちの観点からすれば、資源と環境の保護はこれ以外の2つの支柱の基礎となるものです。もし私たちに生存する空間がなければ、経済発展を論ずることはできませんし、社会的な進歩を論ずることもできないでしょう。それゆえ2番目に、武漢市の経済発展の状況を紹介したいと思います。ここ何年かの武漢市の経済も比較的良好な発展を遂げておりまして、これらの図(図省略)は第1次、第2次、第3次産業のここ何年かの発展で占める割合を表したのですが、これは違う部門の武漢の国民経済に占める割合で、これらについてはお話ししないことにします。

3番目は環境保護です。武漢市の経済は確かに発展しましたが、その環境保護の状況はどうなっているのかという問題です。それゆえ最初に、武漢市の環境保護、その地表水について少しお話しします。なぜなら先ほど、地表水は武漢市では比較的豊富であると申しましたが、大部分の水質指標は国家の3級標準に達しています。しかし、標準を超過しているものあり、それは主に窒素と磷による汚染です。飲用水の水質は97.21%にまで達しています。図1は排水の状況です。工業廃水が少なくなって、生活廃水が徐々に増加しています。図1には処理の状況も示されています。工業排水は基本的に90%前後の処理基準達成率を実現しています。水の問題は主に工業排水と都市排水に現れています。主要な汚染は窒素による汚染、CODによる汚染とクロムによる汚染です。図2は大気の質です。先ほどお話ししたのは水でした。1999年頃から、平均濃度が下がってきているのが見てとれます。ここ2年間は横這いですが、この主なものは浮遊物で、吸引可能な粒子と二酸化硫黄、

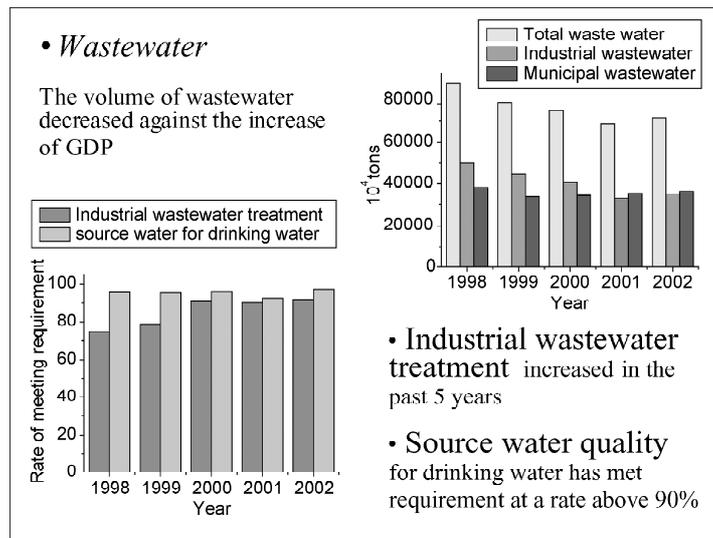


図 1

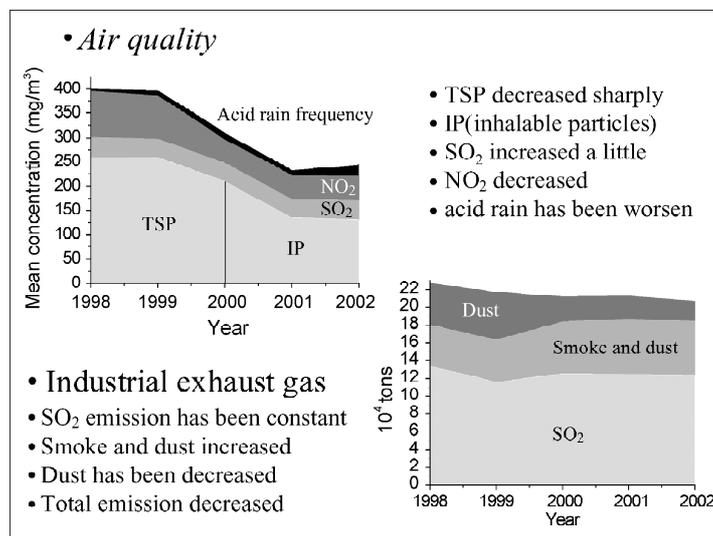


図 2

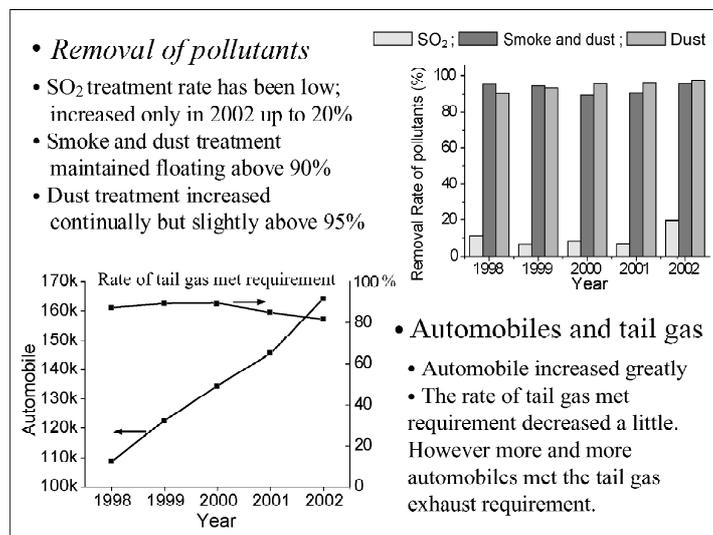


図 3

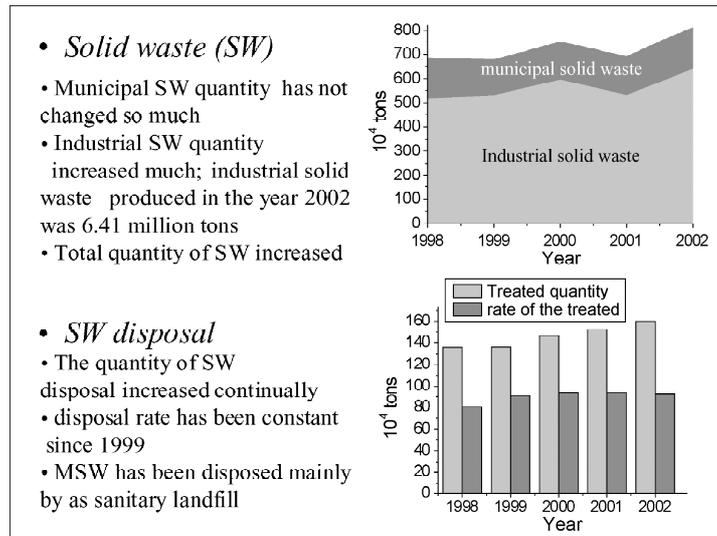


図 4

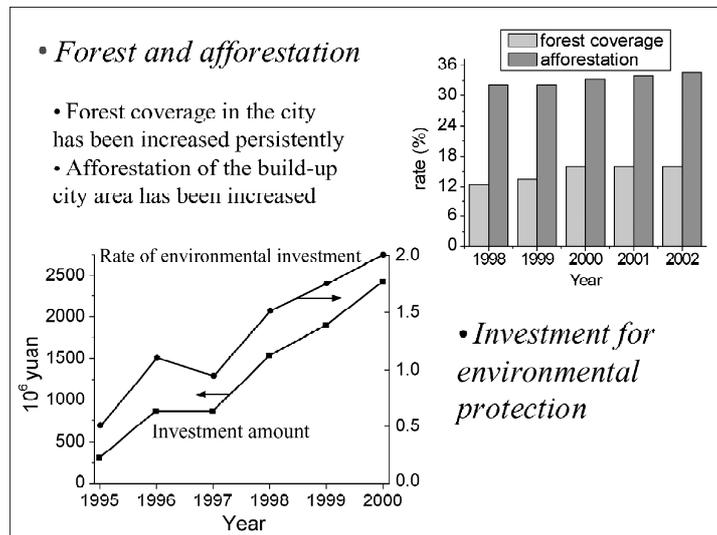


図 5

二酸化窒素です。これについてはこれ以上はお話ししません。騒音は武漢市では基本的に規制が実現していますが、交通の騒音と建設の騒音が現在ではかなり大きくなっています。図 4 の固体廃棄物の現在の処理方法で主なものはやはり埋めてしまうことです。図 5 は、緑地、植生と関係した状況です。

4 番目は、実行している活動についてです。当然、武漢市の市政府と武漢市の環境保護局が多くの活動を行います。比較的著名な活動は国連発展計画が支援する持続可能な発展プロジェクトで、これは比較的成功しています。これは 3 つの面に分けることができ、それから 6 つの問題がありますが、資料的にはすべて揃っていますがここでは申し上げません。7 つの提案をしなければならないと感じています。どうもありがとうございました。少し時間オーバーしましたか。

(当日の報告発言、原文は中国語。邦訳 小島三多)